

平成30年度子どもの貧困対策にかかる主な取組

(1) 子ども輝く未来基金 (平成30年3月28日創設)

○子どもの貧困対策を社会全体ですすめるという機運を高めるとともに、善意の受け皿として創設。寄附を財源とし、直接子どもたちに提供できるものを基本に活用。
(本年11月より取組を開始)

■寄附の受入状況： 45,920千円 (11月1日現在) 企業等19件、個人38件

■30年9月補正予算額： 56,841千円

〔 基金積立金：41,141千円 (平成29年度中の基金積立額8,859千円とあわせて計50,000千円)
事業費：15,700千円 〕

○子どもの教育に関する事業 (12,250千円)

概要：子ども食堂等における計算ドリルや問題集、知育玩具などの購入にかかる費用を支援 (府から物品として支給)

対象：学習支援を実施する府内の子ども食堂等を利用する子ども

内訳：学習教材 (11,250千円)

知育玩具 (1,000千円)

○子どもの体験に関する事業 (3,450千円)

概要：子ども食堂等や母子・父子福祉団体を通じて、各種体験活動の参加にかかる交通費や保険料等を支援

対象：府内の子ども食堂等を利用する子ども及びひとり親家庭の子ども

内訳：文化芸術体験活動 395千円

自然・スポーツ活動 2,173千円

科学体験等の活動 882千円

(2) 子どもの未来応援ネットワークモデル事業 (門真市への委託)

○地域の方々の協力を得て、課題を抱えた子どもや保護者を早い段階で発見し、支援につなぎ、見守るシステムをモデル的に構築

■事業費：29年度実績額 11,415千円 (国庫1/2、府費1/2)

30年度当初予算額 7,245千円 (府費10/10)

■事業期間：29年10月1日～30年7月31日

■活動実績：・コーディネーター1名、推進員12名 (6中学校区×2名) を配置
・応援団員数 (地域人材) 1,038名 (7月31日現在)
(ヤマト運輸、門真市清掃協議会、ヤクルト等の団体とも連携)



⇒ 主な成果：・地域において子どもや保護者を見守る機運が高まった。
・72件のケースについて、地域の方等からの連絡をきっかけに対応を検討し、見守りや支援へのつなぎを行った。

(3) 子どもの貧困緊急対策事業費補助金

○市町村における地域の実情に応じた課題解決の取組を支援 <全市町村対象>

■予算額(30年度当初)： 3億円

■対象事業：(1)課題を有する子どもや保護者を発見し、支援へのつなぎや見守り等を行う取組
(2)ひとり親家庭の親の雇用の促進に係る取組

■補助率： 1/2

■補助金上限： 1市町村あたり2,000万円
(ただし、予算の範囲内で対応)

⇒21市町で補助金を活用した取組を実施 (11月15日現在)

モデル事業の成果について
市町村と情報共有を行うとともに
「子どもの貧困緊急対策事業費補助金」
の活用を図り
府内市町村の取組を推進